

CSR

REPORT 2015

次の世代の子どもたちのために

Topic①
トップコミットメント

Topic②
環境事業

Topic③
Safety&Health事業



三菱製紙販売株式会社
取締役社長

牛島 光夫

2015年6月26日をもちまして代表取締役社長に就任いたしました。私はこれまで三菱製紙株式会社においてメーカー営業一筋で、お客さまに支えていただきましたので、顧客起点で考えることを経営の基本としております。今後は流通の立場、よりお客さまに近いところで、三菱製紙販売としてめざすべき企業像とそれを実現するための経営方針を設定していきます。

わが国の経済が金融・経済政策による景気へのプラス効果の期待感がある中で、紙パルプ業界においては需要構造の変化が拡大し長期的な市場縮小傾向が続くと想定されています。当社はこの厳しい経営環境下、「創意工夫」を重ね、「全員参加の経営」で難局を乗り切る所存です。

着実な成長ペースを維持するために



当社はメーカーとお客さまをつなぐ代理店としての機能をさらに高めていきます。市場や社会が求めているものを的確にとらえ、三菱製紙のみならず北越紀州製紙、大王製紙などの各製紙メーカーの強み

を活かせるような、より強力な販売システムを構築したいと考えております。今後も開かれた販売会社として、洋紙販売事業を基軸としていくことに変わりはありませんが、これまで取り組んできている環境事業やSafty&Health事業が着実に育っていますので、さらなる発展に向けて注力してまいります。

販売機能や商品開発機能の強化とサービスの充実を図り、お客さまをはじめすべてのステークホルダーの期待に応えられるよう、努めていきます。そのためには、お客さまとの関係強化、新ビジネスモデルの構築、新事業の展開、高付加価値商品の拡販を積極的に進めると同時に、業務プロセスの合理化や物流システムの再構築等も推進してまいります。

企業価値の向上と持続可能な社会のために



困難な状況においてこそ、ガバナンスや危機管理、基本的人権の尊重、公正な事業のための教育と監査、働きやすい仕事環境の整備、安全安心な商材の提供、地域社会との連携と社会貢献などを疎かにしてはならないと考えています。

社会的課題を解決し、 企業価値を高めていきます

環境課題への取り組みにつきましては2001年からISO14001環境マネジメントシステムを運用しており、2002年に国内流通業として最初にFSC® 森林認証紙の販売を始めました。2013年より環境事業の一環として、FSC応援プロジェクトを運営しFSCの認知度向上と利用の促進のためにさまざまなイベントも開催しています。従業員自らが森を知ることから始めようと森林保全ボランティア作業を定期的に行い、環境をキーワードに産学連携や地域連携も始めました。

持続可能な社会の実現に欠かすことのできない取り組みは従業員による環境改善活動だけに止まることはできません。一昨年、昨年と、経営者と従業員によるワークショップを2回開催し当社の課題や強み、めざすべき姿を議論しました。今までの発想から一歩踏み出して、事業を通じて社会的課題の解決に貢献できる商材やサービスをお客さまや消費者、地域との対話、協働によって創造していく。サプライチェーン全体で最適化する。こうした取り組みが当社の企業価値向上に結びつくものと考えております。

当社を支える人の成長のために



当社の基盤は人です。従業員の成長がなくては事業の発展や社会的課題の解決はできません。主体的に判断、行動できる人財を育成する教育プログラムを充実させていますが、今後も知識面だけでなく意識面の高揚に重点を置きたいと思います。私は従業員に「情熱・熱意」を呼び掛けています。何事に対しても熱意を持ち、すべての人に対して関心と愛情を注ぐことによって道は拓けると信じています。



事業を通じて実現する未来社会

三菱製紙販売のアイデンティティと強み

- ▶▶ 歴史
- ▶▶ 企業統治
- ▶▶ グループネットワーク
- ▶▶ 従業員の団結力
- ▶▶ 提案力



私たちは、創業以来、紙製品の専門商社として、各種用紙をはじめ多種多様な商品を社会へ提供し続けることで、100年以上にも及ぶ歴史を歩み続けてまいりました。今後も紙製品の販売を軸に、加速する需要構造の変化に対応した新しい商品・サービスの提案を通じて、ステークホルダーの皆さまとともに持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

三菱製紙販売のステークホルダー

お取引先 (仕入先)

お取引先(仕入先)に提供する価値

公平で公正な取引を通じて、お取引先(仕入先)との信頼関係を構築し、互いに切磋琢磨する良きパートナーとして、新たな価値を提供する商品・サービスを創造します。

地球環境・ 将来世代

地球環境・将来世代に提供する価値

地球環境を健全な状態に保ち、次の世代に引き継ぐことが人類全体の課題であることを認識し、「循環」「共生」「参加」を基調とした持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

お客さま (販売先)

お客さま(販売先)に提供する価値

お客さま(販売先)のニーズに柔軟に対応して信頼関係を高め、社会の変化をいち早く察知した商品・サービスを提案することで、お客さま(販売先)とともに新たな未来社会の創造をめざします。

地域社会

地域社会に提供する価値

地域社会の一員として、地域の発展に貢献する活動を推進します。特にコミュニティづくりを推進し、地域社会におけるコミュニケーション機会の充実をめざします。

従業員

従業員に提供する価値

従業員がやりがいを持って働き、自己実現できる会社をめざします。一人ひとりが変わり続ける市場ニーズを捉え、主体的に仕事に取り組める職場環境を実現します。

商品・サービスを通じてステークホルダーとともにめざす未来社会

三菱製紙販売は、事業を通してお客さまや社会が抱える課題解決に貢献していくことにより、すべての人が笑顔で、安心して暮らせる持続可能な社会の実現に挑戦します。

田中林業(株)×三菱製紙販売(株) 座談会

FSC®の未来を探る

FSC

都心から車でわずか1時間。東京都西多摩郡檜原村※1の豊かな自然の中に広がるのが、都内で唯一となるFSCの森です。三菱製紙販売の3名の社員がこの地を訪ね、森を管理する田中林業株式会社の田中惣一社長とFSCの未来について語り合いました。

田中林業(株) 代表取締役
田中 惣一

江戸時代から続く田中林業の15代目。平日は山仕事、週末は体験の森で講師を務めるなど多忙を極める。

直需四部 直需第9チーム
遠藤 幸子

1999年入社。2回の産休・育休を経て、紙原料のバルブの仕入・販売業務を担当。ワーキングマザーとして日々仕事に子育てに奮闘中。

総務部 総務人事チーム
田中 伸治

1991年入社。名古屋支店、本店で通算18年営業部署を経験。2009年から人事・総務・CSR・大阪の会計部門を担当。

営業開発部 営業開発第2チーム
篠原 進

1989年入社。静岡駐在員事務所、名古屋支店三菱商事パッケージング出向、本店直需二部を経て現職。エコピーパー。

FSCの森を訪ね、森に学ぶ

遠藤 私は今まで「森は暗いもの」と思い込んでいたので、田中林業さんの森の明るさに驚きました。東京にこういう場所があるとは知りませんでした。実際にFSCの森を訪れて、その豊かさや美しさを実感しています。



田中社長 当社がFSCの認証を取得したのは2012年3月です。林業家が集まる勉強会がきっかけで、FSCを知りました。日本の林業が衰退す

る中だからこそ、「東京の森でFSCを取得する」というインパクトで林業の新たな可能性を広げたいと思ったのです。FSCを通してさまざまな人とつながりたいと思っていた頃、三菱製紙販売さんとの出会いがありました。

篠原 田中林業さんとは、2014年からの付き合いで、当社としてもいろいろと勉強させていただいています。田中林業さんが取り組まれるエコツアーには、すでに多くの従業員が参加していますね。

田中社長 当社のエコツアーは10年ほど前から始め、これまでに延べ1万人以上の方が参加しています。東京では自然に触れ合う機会は限られています

が、多くの人に森と親しむ原体験を持ってほしいというのが私たちの願いです。その記憶は後々まで森を見ていると心が落ち着く、動植物と触れ合いたい、自然を大切にしたいという思いとして残ります。

田中 私はもともとインドア派で、大人になるまで自然の中で遊ぶ経験をほとんど持たずにきました。それが田中林業さんのエコツアーを機にアウトドアを楽しむようになり、一緒にツアーに参加した娘も強く興味をひかれた様子でした。



田中社長 エコツアーの引率では、子どもたちの視点や観察力に驚かされることが多々あります。森に入ると、インストラクターが多くを語らなくても、子どもたちは自ら自然の素晴らしさを感じ取り、自由に学び始めます。過去にエコツアーに参加した子どもが、成長して森を守る仕事に就いたという話を聞いたときは、取り組みの意義を感じますね。



遠藤 私も2歳と5歳の子どものがいるので、ぜひこのFSCの森に一緒に来てみたいですね。子どもがどんな反応をするかと思うと楽しみです。



田中林業さんから少し離れたFSCの森である「遊学の森」で、エコツアーを開催しているそうです。



近くには南秋川が流れ、清流のせせらぎが心地よく感じられます。

FSCの普及に向けた課題

田中社長 現在、日本におけるFSCの森のFM認証取得数は頭打ち感があります。関心がある林業家のFSC認証取得が一巡し、維持・更新費用の負担から、あえて取得に踏み切らない林業家も多くいます。個人的にはエコツアーなどをもっと広げ、FSCの認知度を高めることで、FSC認証材という付加価値への理解を進められればと考えています。FSC認証が木材価格に反映され適正な価格で流通できるようになれば、取得をめざす林業家は増えてくるでしょう。

田中 日本のFSCの認知度は5%程度しかないという調査データ^{※2}もあり、当社も課題を感じています。FSCという言葉自体の分かりにくさも一因となっているのかもしれませんが。

篠原 一方、同調査でエコマークの認知度は88%となっており、もっと消費者目線での活動の必要性を感じています。当社では、FSCの認知度アップのイベントとして、FSCフォレストウィーク^{※3}に参加しています。また、2020年には東京オリンピックを控えていますが、ロンドンオリンピックでFSC認証材や認証紙が採用されたように、日本でもオリンピックを機に普及

と理解が進むことを期待しています。

遠藤 私自身、今までFSC®について知る機会が少なかったように感じます。自分の会社で取り扱っている紙でありながら、消費者の立場であらためて注意して見れば、身のまわりにはFSC商品が多くあることに気づきました。認知度向上のためには、FSCの森の素晴らしさを体験するエコツアーは非常に有意義だと思います。

田中 一方で感じるのが、事業としてFSCを扱うことの難しさです。当社のようなBtoBの会社では、消費者の認知度向上が売上や収益に結びついていることを実感しづらいというジレンマがあります。今後、事業につなげられるよう、FSC認証紙の導入や社員教育を考えるお客さまに森を訪れてもらうなどのアプローチを模索しているところです。当社単独ではなく、業界や自治体などと連携した取り組みで訴求力を高めていくことも大切なのでしょう。



「遊学の森」を歩くと、植林されたヒノキの中に「マザーツリー」と呼んでいる樹齢約250年の巨木が圧倒的な存在感を放っていました。

豊かな自然が広がる 未来のために

田中 田中林業さんとの協働により、森というフィールドを近くに持てることは、当社の大きな強みになっています。環境事業のテーマである「次の世代の子ど

もたちのために」豊かな自然を残していく活動はもちろん、事業面でも明るい未来につなげていけるよう、より良いパートナーシップを築いていければ嬉しいです。

遠藤 例えば、子どもが森で遊んだ思い出を残せるようなグッズ製作などができれば、事業と結びつくかもしれません。私も主婦としての感性を活かしたアイデアを提案していきたいです。

篠原 FSC認証紙の需要拡大は私たちの責務ですが、紙だけではなく認証材の利用も広げる必要があると思っています。日本では、森を守る



ために適切な間伐が必要で、木はどんどん使わなければならないという認識がまだ不十分だと感じます。正しい理解を広めながら、田中林業さんとともに森林保全につながる事業を展開できればと思っています。

田中社長 私も次のステップとして、このFSCの森からの商品を貴社と一緒に世の中に出せればという思いがあります。例えば当社の森ではメープルシロップがとれますが、これはFSCの森では世界初のこと。商品化できると大きなインパクトを出せるのではないかと考えています。

篠原 それは魅力的な商品になりそうですね。今後もしろいろとご相談しながら進めていきたいと思います。本日はありがとうございました。

※1 島を除くと東京都で唯一の村で、東京都の西に位置し一部を神奈川県と山梨県に接しています。山に囲まれており、村域の9割以上が森林のため林業や製材業が盛んですが、近年は豊かな自然を楽しみに訪れる人が増えています

※2 2012年12月 FSCジャパン調べ

※3 毎年9月の最終金曜日に世界各国で行われるFSCの普及啓発イベント「FSC Friday」の日本版として「FSCフォレストウィーク」が今年初めて開催。P.9もご覧ください



足もとに目を移すと、草花だったり、切り株から自然萌芽した姿を見ることができました。



FSC®の森エコツアー

アイデンティティと強み

提案力

実際に森を歩き、森の管理に携わる方の声を聞く事で、FSCの森を身近に感じていただこうと、東京都檜原村の田中林業(株)とコラボ、イベントを企画、実施しました。

FSC応援プロジェクトを通じてお付き合いの始まった東京都檜原村の田中林業(株)はFSCの森をお持ちです。代表の田中惣一さんのナビゲートのもとFSCの森の中を歩き、木々に触れていただくツアーを開催しました。

3月にはFSCの森に自生するイタヤカエデから収穫した樹液でメープルシロップ作りをしました。「木はCO₂を吸収して育つでしょう。だから、燃やしてCO₂を放出しても相殺される。さらに薪にした木の後で若木が成長し、またCO₂が吸収される。循環型のエネルギーとして有効利用したいよね」と田中さん。薪ストーブでじっくり煮詰めて、半日かけて琥珀色に仕上がったシロップの味は絶品! 森の恵みに大感謝です。

9月には「知る・見る・食べるエコツアー」を開催。これには定員を上回る応募の中から抽選で選ばれた14名と環境問題に取り組む大学生10名が参加。「遊学の森」を散策し、

動植物の観察をしたり、落ち葉や木の実などクラフト用の材料を集めました。昼食には、FSCの森で集めた薪を使い、石釜で焼く「ピザ作り体験」を。午後には「遊学の森」で集めた材料と間伐材を使ってクラフト工作体験を行い、秋の一日、FSCの森を満喫していただきました。



1 FSCの森でもある「遊学の森」を散策。田中惣一さんのナビゲートのもと、山道を登ったり、動植物の観察をしました。2 FSCの薪を使った石釜で美味しいピザを焼きました。3 間伐材を使ってバターナイフを作りました。

国内 森林保全

間伐などの森林保全作業は、人工林には決して欠かせない

アイデンティティと強み

従業員の団結力

田中林業(株)の敷地内で、間伐、下刈りなどのボランティア作業を行っています。社員の森林保全の意識を高めていることはもとより、社内の団結力も高まっています。

国土の3分の2を占める約2500万ヘクタールが森林である日本。世界有数の森林国ですが、全体の約4割が人工林です。戦後、急速に木材需要が増え、成長の早い木々が植林されて人工林の比率が高まりました。しかし、安価な木材が輸入されると林業は衰退の一途を辿り、担い手不足も追い打ちをかけ、人工林はどんどん荒廃していきました。

手入れをしない人工林では樹木が十分な栄養を吸収できず、細くて弱い枝が重なり合った暗い森が生まれます。植物が十分に育たない森は土砂崩れや河川の氾濫などの災害を引き起こす原因にもなっています。

当社は毎月1回、田中林業(株)のFSCの森で、従業員による森林整備作業を行っています。FM認証のスキームにより適切に管理された素晴らしい場所で、下刈りや遊歩道の整備、清掃などの活動をしています。

実際に作業をしてみると、大地にしっかり根を下ろした

木々の力強さや、想像もできないくらい長い間その場所に鎮座して歴史を見守ってきた岩の存在感など、エコツアーで散策しただけでは気づかなかった「森」の息遣いを感じることができます。そして、それぞれの存在によって森が形成され、人々に恵みをもたらしていることを実感、次の世代に残していくことの大切さをあらためて学んでいます。

また、日常とは異なる空間での共同作業を行うことで、参加メンバーの間で言葉にできない意思の疎通ができるようになってきたようにも感じます。

少しでも森林保全に貢献できれば、という想いからスタートした整備作業ですが、森から学ぶことはまだまだたくさんありそうです。





FSC Friday



アイデンティティと強み

グループネットワーク

日本の製紙業界でFSC森林認証のパイオニアである三菱製紙グループの一員として、環境や社会に配慮して生産された木材製品を選ぶという、誰もが参加可能な森林保全の手段を普及することを目的として、お取引さまをはじめ、これからFSC認証に取り組もうとしているステークホルダーの皆さまとも協働しています。

今年のイベント期間は約2週間 各地でさまざまな啓発イベントを開催

FSCの認知度を広めるため、毎年9月最終金曜日に全世界で開催される「FSC Friday」。今年は日本で初めて「FSCフォレストウィーク」と称して、9月11日(金)から28日(月)までの2週間に渡って、主催のFSCジャパン、共催団体WWFジャパンとともにFSC応援プロジェクトとして、参加企業とともにさまざまな企画・イベントを開催しました。

初日には開催を記念してオープニングイベントをダイエー赤羽店にて開催。近隣の幼稚園と協力し、約60名の子どもたちがWWFジャパンの絵本「森を守るマークをえらぼう!」をもとに作成した紙芝



オープニングイベントでは子どもたちと「FSCラベルラリー」をしました。



クロージングイベントでは紙すき体験に参加しました。

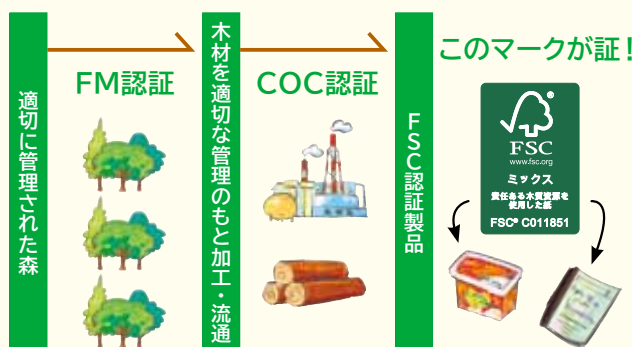
居を見た後、店内をまわってFSCラベル付き製品を探しました。ダイエー赤羽店では、期間中継続して来店客を対象に「FSCラベルラリー」も実施。売り場でFSCラベルの付いた飲料紙パックやキッチンタオル、ノートやコピー用紙などの紙製品を探すもので、このような普及の取り組みは世界的にみても珍しいものとなりました。

9月12日には、東京都檜原村にある田中林業(株)へのFSCの森ツアー、9月18日には、(株)イトーキによりFSCビジネスフォーラム2015が開催され100名を超える参加がありました。宮城県南三陸で進行中の森林と海のユニークな取り組み、店舗で使用される建材やテーブルなどの内装に国産FSC認証材が活用されている事例などが報告されました。最終日の9月28日には、クロージングイベントをイオン葛西店にて開催。三菱製紙(株)エコシステムアカデミーと“森のめぐみの紙すき体験”を実施、多数の皆さんに紙づくりの楽しさを感じていただき、FSC森林認証紙は持続可能な生物多様性の森林からつくられることを知っていただきました。

FSC

世界に広がるFSC認証のしくみとは

森林認証制度を運営する国際機関のひとつがFSC (Forest Stewardship Council®/森林管理協議会) で、FSC認証は2種類あります。適切に管理された森を認証する「FM認証」は、あらゆる管理者・所有者の森を対象としています。また、そこから生産された木材を加工・流通段階において他の木材と混ざることなく管理した事業者を評価するのが「COC認証」です。国際的にも信頼性が高い制度であり、*FM認証は80カ国1358カ所、COC認証は113カ国2万9508件へと普及しています。



※FSCインターナショナル「Facts and Figures September 15」より

森林保全
に貢献

間伐材ノベルティ

アイデンティティと強み

提案力

木の成長にしたがって適切に間伐や下刈り、枝打ちを行うことで樹木が十分な栄養を得て健全な森が保たれます。国産間伐材の利用促進は、お客さまが国内の森林や林業を元気にすることにつながります。

国産間伐材によるノベルティグッズの製作を行うフロンティアジャパン(株)さんとの協働関係はさらに深まり、国内森林保全で生まれた間伐材を有効利用するいくつかの取り組み事例が進行しています。例えば、森林の整備、伐採作業に欠かせない重機メーカーに間伐材ノベルティを提案したところ、「森林保全にも貢献する企業目的とも合致し企業価値が向上す

る」と、喜んで採用いただきました。

FSC認証品もできることになり、さらに環境に配慮した商品も揃えました。



動物などを型どった可愛らしい間伐材のグッズです。

間伐材を使った組み立て式のオリジナル卓上時計です。

産学
連携

私たちの経験と大学生のアイデアを連携させて、新しいスキーム構築に向けて協働

アイデンティティと強み

提案力

セキュリティを確保しながら資源循環に役立つクローズドループサイクルなど、私たちが持つスキームや経験を大学生の新しい視点と組み合わせることで、新しい社会的価値を創造しようとしています。

千葉大学では、2003年10月に環境ISO学生委員会を発足させ、2007年にはすべてのキャンパスでISO14001認証を取得。また、2009年には同委員会をNPO法人とするなど、早くから環境に関する取り組みを進めています。当社は同委員会の皆さんと、学内で発生する古紙の循環スキームの構築、間伐材の有効利用等の検討を進めています。

9月には当社が行っている森林整備作業の現場(東京都檜原村)にも足を運んでいただきました。感性と経験の融合の中から新しい発想が生まれ、未来につながる製品・サービスを生み出すことができるでしょう。



エコユニット



アイデンティティと強み

従業員の団結力

主体的に環境に関わる“人”づくりの視点から、日本商工会議所が主催となり年2回開催する「環境社会検定試験(eco検定)」の受験を推進しています。昨年eco検定の合格者を中心に、環境問題を会社ぐるみで取り組む「エコ・ユニット(eco-unit)」に登録しました。

昨年、「次の世代の子どもたちのために」をテーマに、環境事業「with Forest +(プラス)」を始動、その事業名をエコユニット名として本年2月に登録しました。今後ともエコユニット企業として、検定試験で習得した環境に関する基礎知識を日々の業務の中で活

かし、お取引先さまの環境活動をCSVの視点でサポート、ストーリー性のある環境提案を行うことで、環境事業をさらに推進してまいります。



自らエコビブルとしてエコユニット事務局を運営
総務人事チーム 輪田 祥江

「安心・安全」「健康」をキーワードに商材・サービスを提供

アイデンティティと強み

提案力

2013年度からスタートした事業ですが、商品点数はもちろん、販売も伸びてきています。「将来に希望を持つための商材とサービス」をコンセプトに、トータルでステークホルダーの皆さまにご提供することをめざしています。

今年4、5月に「防災展」を主催し、AED体験講習会や、当社仕入先のメーカー、販売会社との協力による備蓄食品の試食を実施しました。多数のお取引先の方にご来場いただき、当社の取り扱い商品に実際に触れていただきました。現在取り扱っている商品は「AED」や「ハンズフリー担架」といった救急救命器具、「防水型LEDソーラーランタン」や「携帯トイレ」などの防災用品、空間除菌剤といった健康関連商品など、

ステークホルダーの皆さまの「安心・安全」「健康」をテーマにした商品をラインアップしていますが、今後もさらに増やしていく予定です。

また、災害時や緊急時における地域への対応に関しても、当社CSR活動のひとつとして考え、地域連携に取り組んでいます。そのひとつに、京橋地域での防災体制構築を検討し、近隣企業の皆さまとつながりを作る取り組みを行っています。

救急救命器具

AED(自動体外式除細動器)

2004年7月から一般市民も使用できるようになってから12年目を迎え、全国の設置台数も20万台を超えているAEDですが、2013年度消防白書によりますと、一般市民に目撃された心肺機能停止による救急搬送2万5469件のうちAEDが使用されたのは907件の3.7%です。設置数不足、経験不足から「使いたいときに使えない」「あっても使い方がわからない」などで使用率が上がらないのが実状です。

いつでも、どこでもAEDが使用できる環境をめざして、事務所、工場、他各所への設置を増やし、誰でも使えるよう講習会も開催しています。

大手企業グループ各社、ドラッグストアチェーンや東北被災地への設置にも日々力を注いでいます。



「トレーニングキット」も取り扱っています。



イメージ(イラスト)

ハンズフリー担架「イージーレスキュー」

軽量・コンパクトで、救助者が2名いれば使え、事故現場や事故者への迅速なアプローチに有効です。ハンズフリー設計のため、救助者は空いた両手で治療用具や避難照明を持ったり、ドアの開閉、手すりを使用しながらの移動など、従来の担架では行えない動作が可能です。

スイス軍・オーストリア特殊警察部隊に公式採用されている安心・安全性能の救護担架です。本年春に日本山岳救助機構合同会社(JRO)より全国の山小屋50箇所へ寄付され、公益社団法人東京都山岳連盟遭難救助隊の推奨品としていただいております。

防災用品

東海地震は30年以内に88%の確率で、また首都直下型地震は同じく30年以内に70%の確率で発生すると推定されています。内閣府の被害想定では「都心南部直下地震M7.3」が発生した場合、全壊焼失61万棟、死者最大2万3000人、帰宅困難者は800万人と言われています。

当社ではステークホルダーの防災・減災をめざし、自助・共助に向けて事務所・工場・倉庫の

防災対策、備蓄品の提案を行っております。

地震の際、凶器となるオフィス家具やOA機器の転倒防止対策、帰宅困難者への備えとして長期保存食糧、長期保存水、トイレ処理剤、また怪我人を搬送する際に使用する担架など、自信を持ってお薦めできるさまざまな商品をラインアップしています。

社内の防災士有資格者による「オーダーメイド防災用品のパッケージ提案」も可能です。



携帯トイレ

震災時の上下水道が止まって困る問題のひとつにトイレ問題があります。抗菌力、脱臭力、長期保存性(10年)の高性能を評価され、電力会社などのインフラ企業や日本野鳥の会のような各種団体をはじめ、広くご採用いただいております。



防水型LEDソーラーランタン

備蓄時は小さく折りたたみ省スペース、ソーラーパネルで充電可能な乾電池のいらない防水型のランタンです。大手通信販売会社をはじめ、多くの企業にご採用いただいております。

また富士河口湖町役場や富士山五合目売店などへもご導入いただき、地域、登山者の防災にも力を注いでいます。



オフィス家具、OA機器転倒防止「不動王シリーズ」

企業防災では社員の安全確保を第一に「複写機、オフィス家具類の移動・転倒防止」の重要性が言われています。当社がお薦めするのは、地震動を吸収する制振型で震度7の地震波で実証実験済みの製品です。壁や床を傷つけることなくセルフで簡単に設置できる優れもので、安全診断・施工も承っています。

防災士 資格取得支援

めざす未来

企業からの防災の取り組みをステークホルダーの皆さまとともに広げ減災と防災力向上をめざします。

NPO法人日本防災士機構が認定する防災士は、防災に関する意識と知識、技能を備えており、地域や職場の人たちと協力してそれぞれの状況に対応してリーダーシップを発揮し、その活動の中核となることを期待される人です。

日本は地震や洪水などさまざまな災害が発生しやすく、これまでも度々大きな災害に見舞われています。災害発生時の被害を最小限に抑えるために、日頃からの取り組みが重要です。

企業において防災力を高めるためには、社員一人ひとりが基礎的な知識や技能を身に付けるとともに、職場全体で力を合わせて対策を講じることが必要です。

当社では、防災士の資格取得を奨励し、2015年11月現在、10人が取得しています。その知識を活かし、安心、安全をキーワードにしたSafety&Health事業では防災用品だけではなく防災計画の立案などのサービスもトータルでご提案しています。

大きな災害では、救助、救援がすぐには期待できません。いざというときに自分や周りの人たちの大切な命を守るかどうかは、平時からの心がけ、そして正しい知識が必要です。



地域の防災体制構築に向けて～

めざす未来

地域とのつながりを深め、地域社会が抱える課題解決に貢献します。

当社で導入しているものを中心に、Safety&Health事業で取り扱う防災関連用品や非常食などの紹介・提案を目的に「防災展」を開催。お取引先や近隣企業、町内会などのステークホルダーの皆さまにも参加していただきました。

大規模な災害は、いつどこで起こるか分かりません。日頃から災害発生に備えて、被害を最小限に抑える減災の取り組みが重要となります。

当社では、AEDやイージーレスキューなどのSafety&Health事業で取り扱っている救急救命器具や非常食を導入し、災害対策を強化しています。

また、総合防災訓練や安否確認訓練を定期的 to 実施し、いざというときに備えて従業員の防災・減災に対す

る対応力を高めています。同時に、ステークホルダーの防災体制構築の一助としていただくために開催した防災展では、AEDやイージーレスキューの体験講習、マイレット(携帯トイレ)、防水型LEDソーラーランタンなどの防災関連用品の展示、新食缶ベーカリー(備蓄用パン)の試食といった体験や見学をしていただきました。

防災展を通して、近隣企業や町内会の皆さまにも当社の防災に対する取り組みを知っていただくことができ、有事の際だけでなく日常的にも協力し合える関係づくりの一步となりました。



CSR年間活動

2014年度の年間活動

- 【4月】 ●FSC®年次監査
 - 環境教育(4月～5月)
 - 町内会清掃活動(隔月)
 - はな街道花植えイベント
 - FSC応援プロジェクト&すみだ水族館イベント
- 【5月】 ●安否確認訓練
 - はな街道クリーンウォーク(5・7・12月)
- 【7月】 ●社内人権啓発研修
- 【8月】 ●FSC応援プロジェクト「檜原村キャンプ」
 - ISO14001内部監査
 - FSC応援プロジェクト「キッズ環境教育」
- 【9月】 ●京橋地区総合防災訓練
- 【10月】 ●三菱製紙グループCSR委員会・コンプライアンス委員会・リスクマネジメント委員会
 - 三菱製紙グループ・コンプライアンス教育
 - 三菱製紙CSR教育
 - ISO14001年次審査
- 【11月】 ●FSC応援プロジェクト「FSCの森エコツアー」
 - 人権啓発標語社内募集
- 【12月】 ●CSR教育
 - エコプロダクツ展2014出展
 - 社内総合防災訓練
- 【2月】 ●エコユニット登録
- 【3月】 ●三菱製紙グループCSR委員会・コンプライアンス委員会・リスクマネジメント委員会
 - はな街道クリーンウォーク

2015年度取り組み

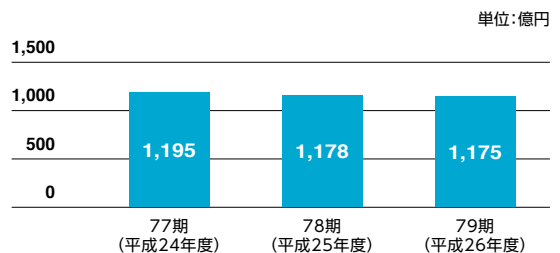
- 【4月】 ●防災展
 - 環境教育(4月～5月)
 - 町内会清掃活動(隔月)
- 【5月】 ●安否確認訓練
 - 三鷹市民大学セミナー講師&紙漉き体験
 - 八戸出張所自転車通勤(5月～10月)
- 【6月】 ●FSC年次監査
 - 森林整備ボランティア作業
 - 音楽部介護施設慰労コンサート
- 【7月】 ●三鷹市民大学セミナー講師&紙漉き体験
 - 森林整備ボランティア作業
 - はな街道クリーンウォーク(年3回)
- 【8月】 ●森林整備ボランティア作業
 - ISO14001内部監査
- 【9月】 ●FSC応援プロジェクト「FSCフォレストウィーク・イベント参加」
 - 森林整備ボランティア作業
 - グリーン購入法古紙配合率監査
- 【10月】 ●三菱製紙グループCSR委員会・コンプライアンス委員会・リスクマネジメント委員会
 - 三菱製紙コーポレートレポート教育
 - ISO14001年次審査
- 【11月】 ●「木っていいな。森っていいな。〇〇っていいな。」
絵画コンクール協賛
 - 三菱製紙グループ・コンプライアンス教育
 - 社内人権啓発研修
 - 人権啓発標語社内募集
- 【12月】 ●CSR教育
 - エコプロダクツ展2015出展
- 【3月】 ●三菱製紙グループCSR委員会・コンプライアンス委員会・リスクマネジメント委員会



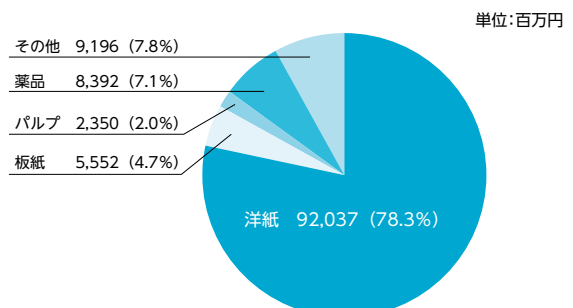
会社概要

- 【本店所在地】 東京都中央区京橋二丁目6番4号
- 【創業】 1912年(明治45年)2月
- 【設立】 1956年(昭和31年)8月
- 【資本金】 6億円
- 【事業内容】 紙類・パルプ及び紙加工品の販売、
製紙用工業薬品の製造並びに販売、
各種メディアの企画、製作、
医療機器・健康器具・防災器具の販売並びに賃貸、
LED照明設備、電気・空調工事の設計、施工
- 【代表者】 牛島光夫
- 【売上高】 117,527百万円(2015年3月)
- 【従業員数】 269名(2015年3月)

売上高推移



品目別売上実績(79期)



事業所一覧

	住 所	電話番号	FAX番号
本 店	〒104-8372 東京都中央区京橋二丁目6番4号	03-3566-2300	03-3566-2339
大阪支店	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町一丁目3番9号	06-6271-2271	06-6261-9290
名古屋支店	〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目16番22号 名古屋ダイヤビル	052-563-7561	052-563-6857
東北支店	〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野一丁目11番1号 ダイヤミックビル	022-295-7710	022-295-7730
九州支店	〒810-0001 福岡市中央区天神一丁目15番6号 綾杉ビル	092-771-1531	092-714-7197
八戸出張所	〒039-1161 八戸市大字河原木字北沼	0178-29-2551	0178-29-2751
札幌出張所	〒060-0063 札幌市中央区南三条西十丁目1001番5 福山南三条ビル	011-271-3555	011-271-3557

お問い合わせ先 東京都中央区京橋二丁目6番4号 TEL：03-3566-2300 FAX：03-3566-2339 お問い合わせ先：総務部CSR推進チーム

Webサイトにてより詳細な内容を掲載しています。

「CSR・環境」のページをご覧ください。

CSRレポートWeb版

<http://www.mitsubishi-kamihan.co.jp/>

右記QRコードからもアクセスできます。▶



がんばろう東北!!
がんばるぞ八戸!!



UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

このCSRレポートは「FSC®森林認証紙(マルガリーソフトA FSC認証-MX)」と、揮発性有機溶剤を含まないアロマフリーで植物油100%の「植物性インキ」を使用し、印刷はアルカリ性現像廃液を出さず、インプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な「水なし印刷方式」を採用しています。このCSRレポートの印刷、製本する際に発生する材料(用紙・インキ)及びエネルギー由来のCO₂約1トンは、新潟県J-VER「トキの森クレジット」を購入することによりオフセットし、この購入代金は、新潟県佐渡市のカーボン・オフセットへの取組とトキの野生復帰に向けた地域の森づくりに活用されます。